

冬富士登山禁止撤廃を求め、署名運動に取り組みませんか？

OWCC 中川和道 20260716

2026 年 4 月 23 日、YAMAP の記事¹⁾で気づいた。冬の富士山が登山禁止になるかもしれない、という。おいおい、11 月 23 日の連休には、労山大阪府連は大型バスを何台も仕立てて大勢で富士山に出かけ、雪上訓練に励んだものなんだ。初冬の富士山で雪山のすばらしさに目覚めた仲間も多いんだぜ。えっ？！あの時期に富士山に登ると「違法」で「罰金」になるかもだって？

びっくりして、ここ 3 ヶ月、状況を調べて来た。YAMAP の記事 4 月 23 日¹⁾に続き、東京新聞 4 月 26 日²⁾、朝日新聞 6 月 4 日³⁾、YAHOO ニュース 6 月 14 日⁴⁾などが目に飛び込んできた。登山の権利を大切にする労山には、情勢を切り開くべく、署名など強い取り組みが求められるのではないだろうかと思い、ここ 3 ヶ月、事態の推移を追ってきた。労山は、他の山岳団体とともに「強い懸念を表明するとともに、その再考を求める」という共同声明⁵⁾を 6 月 20 日に出した。もっと強い取り組みをという声も労山中央には寄せられたという。

声明だけでは不満で、もっと強い行動を求めたい中川は、鈴木岳美さんの署名⁶⁾ <https://c.org/N58nCjNpjj> に、直ちに名を連ねた。7 月 1 日山開き前に鈴木さんが提出した署名は 6065 筆。それを受けてか富士宮市長はプロなら容認し得るとの考えを示したと朝日新聞 7 月 9 日⁷⁾は報じた。さて、いったいどうなるのだろうか？プロにならないと、「違法」で罰金刑になるのかなあ・・・？

鈴木さん呼びかけの署名は 7 月 13 日現在 6409 筆で、まだまだ増殖中。労山会員 25000 人のうち、鈴木さんの署名に応じている仲間も少なくないだろう。応援したいと心から思う。

プロでなくても、積雪期の富士山に登る権利を得ることはできないものだろうか？そういう署名活動があってもいいと思うのだが、何とかならないものだろうか？この署名、ご賛同いただける方は、声を合わせて、署名していきませんか？

労山大阪でも、こういう討論を行いたいものですね。

文献

¹⁾YAMAP20260423 <https://yamap.com/moments/1656396>

²⁾東京新聞デジ 20260426 山岳救助ヘリ「有料化」すぐできない事情とは

³⁾朝日デジ 20260604 富士山「閉山中の登山禁止」 市長が主張、登山家らは反対署名…なぜ

⁴⁾Yahoo! ニュース「観光のエゴで富士山を閉めるな」閉山期の登山禁止を求める地元市長にクライマーが反論…市長は「地元として迷惑」

⁵⁾山岳安全対策ネットワーク協議 <https://jac1.or.jp/event-list/event-guide/2026062242248.html>

⁶⁾ [オンライン署名・富士山の「夏季以外の登山一律禁止」ルール化に反対します - 日本・Change.org](https://c.org/N58nCjNpjj)

⁷⁾朝日デジ 20260709 冬の富士山登山、プロは「容認しうる」 禁止求めた静岡・富士宮市長

⁸⁾朝日デジ 20260701 世界的な登山家も、天狗も安全を祈った 記者がみた富士山開山の日

MEMO:

1. 冬の富士山は雪山愛好者やアルパインクライマーの貴重な訓練場所。登山文化として根付いている。⁷⁾によれば山野井泰史氏は 150 回以上、⁸⁾によれば天野和明氏は 250 回ほど登っている。(中川ですら 15 回以上登っている。)鈴木氏⁶⁾は、冬富士が禁止されると、こういう登山文化が日本から消滅する、と危惧する。中川も同感です。
2. 鈴木氏⁶⁾やコメント者は、富士山への登りを「観光」と「登山」とに区別し、欧米並みの入山前教育の徹底の必要を語る。興味ある論点だ。アメリカ国立公園での入山前教育が参考になる(クマ教育も含めて)と中川も思う。インターネット試験で全問正解まで何度でも受験してもらい、合格証持参で入山可、という提案もあって面白い。
3. 救助費用の有料化：(1)保険をかけておけば自分の財布は痛まないのでも有料化は歯止めにならないとの意見を聞いてびっくり。うーん、そうかなあ。(2)「金を払えば救助隊が必ず来てくれる」「保険だからヘリを呼ぼう」との見方をヒマラヤで見聞し、何という「金が全能の発想」かと、そのひどさにあきれた経験がある。こんな輩には、歯止めにならないかも。(3)溝手康史氏は、²⁾で、富士山救助の有料化は法的に難しい、と指摘する。海難事故で海上保安庁は救助費用を請求していないし、火事・救急車も費用請求はなし。登山だけを別扱いすることは法的公平性から難しい、という。
4. 一方で、明らかにマナーやルールを損なう観光者もいる。どうするべきなのか、山岳連盟としても見解が問われている。